

【保健体育科】

1 今年度の研究について

(1) 教科で取り組んだ授業改善

ア 「主体的・対話的で深い学び」に向けての取組

体育では、各種目実技に取り組み、技能を身に付けるだけではなく、学習カード等を活用し、今何ができているのか、何ができていないのか、さらに上達するためにはどうすればよいのかを考えさせる時間を設け、次への取組に生かせるよう学びの過程を蓄積し成長を確かめられるような具体的な方法をとった。個人の課題やチームの課題を踏まえ、新しい技術習得方法(練習方法)を模索するなど「アイデアを生む」をキーワードに考えて学ぶ授業へと発展させた。

保健では、各内容に対するグループでの調べ学習を実施し、クラス内発表を行った。教科書に書かれている基礎知識を超えての学びは、探求心や知りたい欲求を刺激し、より深い内容理解となっている。

イ ICTを活用した授業の取組

(ア) 運動の動画撮影を行い、フィードバックし改善点を探る。

(イ) ロイロノートを活用した、課題提出と知識テスト。

(ウ) 動画再生アプリを用いた、ルール理解、技術指導。

(エ) インターネットを用いた調べ学習

ウ 今年度の取組の成果と課題

講義型の授業が改善され、生徒が基礎知識を活用し、より深い学びに向かえるよう促すことができた。「アイデアを生む」過程の中で、ステレオタイプに物事を受け入れることが少なくなり、疑問や改善点、個人やチームに対する練習の有効性にまで考えを膨らませることができた。

一方で考える時間が非常に多くなり、運動時間が減少や、教員の講義の中で身に付ける基礎知識を学ぶ時間を減少させ、内容を深める前に調べ学習へと移行しなければならなかった。

取り組ませたことによる「主体的・対話的で深い学び」へ移行はできた。一方で授業と評価の一体化を意識するあまり、全生徒に対して多くの課題を提示する形となってしまった。教員側の生徒評価に対する負担も大きくなってしまい、バランスを崩しかけていると感じる。

(2) 観点別評価の検討について

ア 知識・技能

座学や動画再生アプリによるルール解説をおこない、その後実際のプレーでルールが理解できているかを観察評価やルールの知識テストも実施し評価をした。実際のプレーの中で観察と動画撮影を交え、生徒に解説しながら直接評価を行った。また、技能の到達度チェック(テスト)を実施し評価を行った。評価は基本として観察評価

である。

イ 思考・判断・表現

グループワークを用いて、プレー中のシチュエーションを取り出して話し合い、レポートにまとめさせた。話し合いの場면을観察評価し、さらにレポートを評価した。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

自分の課題を見つけさせ、その課題を解決するための練習メニュー考案を指示し、その練習方法を確認して評価。また、試合前に作戦などを話し合い、記述をさせて評価をした。

評価をする上で、生徒への課題の負担が大きくなっている。他の教科とのバランスを考えなければ、生徒を苦しめてしまう状況になるため、改善が必要と考えられる。

2 来年度の研究に向けて

(1) 教科として取り組む授業改善について

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

(ア) 体育について

体育では、各種目において基礎、基本の技術指導から入り、危険予測ができるよう口頭で注意点を伝えるなど、教科の特性上アクティブな場面が多い教科である。

理解を深める方法として、作戦を立て、課題を共有し、技術改善のための練習メニュー考案など、対話を用いて新たな創造ができ、より深い学びを生み出すことができる考える。

(イ) 保健について

保健では、知らない知識を身につけ、理解する時間は重要であるが、生徒自身が考え、問題点を見つけ出す時間も深い学びを生み出すためには重要となる。教員側の情報発信とその知識を用いて生徒が考える時間のバランスが最も重要であるとする。基礎知識を身に付けさせた後、対話と主体的に考えられるような課題を設定し、話し合い、まとめて、発表につなげたい。

イ ICTを有効に活用した授業の実現に向けて

(ア) 体育について

体育では、手本となる動画を再生し学び、生徒自身の動きを撮影し振り返って修正するなど、ICT活用によってより分かりやすい場面を作りやすい。目から入る情報を増やすことが可能となる。

(イ) 保健について

保健では、パワーポイントや動画再生を用いて、目からの情報を増やすことができ、より理解が深まりやすい授業展開が可能となる。また、全員の意見を聞きたい時に、ロイノートを活用することで、瞬時に全員の意見を集約することが可能である。

(2) 観点別評価の具体的方法、その後の指導の活用について

ア 知識・技能

- (ア) 座学と動画再生アプリによるルール解説実施後のルールの知識テストの実施。
- (イ) 座学と動画再生アプリによるプレー解説実施後に、プレーに対する本人の考えの記述。
- (ウ) 技能の到達度チェック（テスト）を実施。
- (エ) 実技活動中の観察評価の実施。

イ 思考・判断・表現

- (ア) グループワークを用いて話し合い、レポートにまとめさせて評価。
- (イ) 話し合いの場면을観察評価。
- (ウ) 発表に対する観察評価。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

- (ア) 自分の課題を見つけさせ、記述させる。
- (イ) 自分の課題を解決するための練習メニュー考案を指示し、その練習方法を確認して評価させる。
- (ウ) 試合前に作戦などを話し合い、その結果を記述させる。